

JDSF Referee Rule Book

Vol.1 2022 年 6 月

20220930 追記

Vol.1.1 20221207 改訂

Vol.2 20230401 改訂

Vol.2.1 20230426 改訂

Vol.2.2 20230724 改訂

Vol.3 20240401 改訂



Japan Drone Soccer Federation

日本ドローンサッカー連盟

理念

ドローンサッカー®を通じて豊かで健全なバリアフリースポーツ文化を創造し、競技を通じてドローン操縦技術の向上と共に、家族や企業、学生のサークル、地域のコミュニティなどでのチームワークの醸成を図り社会の発展に貢献する。

ビジョン

ドローンサッカー®競技の発展と普及に努め、ドローンを身近な存在にすることで先端技術を取り入れた新しい世界の実現とカルチャーの創造を図る。

多様性を持つ人々が共に、競技を通じ、プレイヤーが共に成長し、その姿をもって、国内はもとより世界の人々との友好を広く持って国際社会に貢献する。

使命

一般社団法人日本ドローンサッカー連盟が指名する JDSF 公式審判員の使命

- ・ 競技の魅力と、競技を通じて得られる喜びを何よりも大切にすること。
- ・ フェア精神を貴び、技術を探求する姿を尊重すること。
- ・ プレイヤー第一主義を貫いて、信念をもって厳正なジャッジを行うことができる知見と技術の向上に努めること。
- ・ 関わりのあるすべての人々を大切にし、成長と情熱、挑戦の高い志しを持ち続けること。

【JDSF Referee Rule Book の編集目的】

ドローンサッカー®の大会・競技規則は一般社団法人日本ドローンサッカー連盟 (JDSF) が制定しているものであり JDSF 及び JDSF に加盟している支部、賛助会員、一般会員によって開催されるドローンサッカー®は国際規格に則した規則に沿って行われる。

スポーツとして広く普及させる上で、国際規格に則した厳正な規則の運用と、その定着は競技者の公平な育成及び競技者を拡大する上で、適切に運用することは世界に通用するプレイヤーの育成を行う上で、重要な規則であり規則の運用者である公式審判員の使命と共に熟知の上、運用することが本編集の目的である。

本編の記載事項は編集時点で最新の内容であるが、適時、国際規則のアップデートと共に、競技者第一主義の思想の元、随時改訂を加える予定であるため競技会運営者及び JDSF 公式審判員は JDSF 発刊の本編 JDSF Referee Rule Book を良くご覧ください。

※FIDA (国際ドローンサッカー協会) FIDA DRONE SOCCER RULE BOOK_JP VOL.2 も併せてご覧ください。

【目次】

- 1) ドローンサッカー®とは
- 2) 名称の取り扱い
- 3) フィールド規定
- 4) ドローンボール
- 5) 競技者
- 6) 審判員の構成
- 7) 大会規則
- 8) 競技規則
- 9) 付則
 - ①公式用語について
 - ②主審・副審の信号 (手信号・旗・笛・等)
 - ②JDSF 組織
- 10) 国際規則(FIDA DRONE SOCCER RULE BOOK_JP VOL.2) の要点

1) ドローンサッカー®とは

ドローンサッカー®は、球状のプラスチックフレームに覆われた専用のドローンボールを使用し5対5で戦う戦略型チームスポーツです。ドローンボールを専用のスカイフェンス両サイドの空中に設置した円形のゴールに入れることで、その得点を競います。年齢・性別に関わらず、また身体に障がいのある方も一緒に楽しめるバリアフリースポーツです。

2) 名称の取り扱い

ドローンサッカー®の名称は競技や製品名称、又、その類似する形態を表すものであり登録商標です。

ドローンサッカー®の名称はAOSテクノロジーズ株式会社が保有する商標であり、株式会社オートボックスセブンに契約の元、使用許諾が与えられています。

(登録番号 第5983929号)

JDSF及びJDSF支部、賛助会員、一般会員は別途定める規約の元使用することが出来ます。

3) フィールド規定

ドローンサッカー®の競技で使用する競技場はスカイフェンスと表現し側面四方と天井部をネットやワイヤー等で囲んだ構造で、プレイヤーはスカイフェンスの外で操縦します。スカイフェンスのサイズは以下の通り規定する。

JDSF 本部が主催する公式試合で使用するフィールド規定

- I : **【class40 公式試合サイズ】** 国際共通規格
- II : **【class20 公式試合サイズ①】** 国際共通規格
- III : **【class20 公式試合サイズ②】** 国内規格

JDSF 本部が認定する認定試合やカジュアルな大会で使用するフィールド規定

- IV : **【class40 認定試合サイズ】** 国内規格
- V : **【class20 認定試合サイズ①】** 国内規格
- VI : **【class20 認定試合サイズ②】** 国内規格

【公式試合フィールド規定】

JDSF 本部が主催する公式試合で使用するフィールド規定

I : 【class40 公式試合サイズ】 国際共通規格

サイズ ※必ず4辺と天井を覆う構造であること

※ドローンボールが外に飛び出すことを防止する構造であること

短辺：7M 長辺：16M 高さ：4.5M～5M

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より2M以上

スターティングポイント : 短辺より1.5M以上

ゴール位置 : 短辺より1.5M以上

ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで3M～3.5M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：100cm(±1cm) 内径：60cm(±1cm) 厚み：20cm(±1cm)

II : 【class20 公式試合サイズ①】 国際共通規格

サイズ ※必ず4辺と天井を覆う構造であること

※ドローンボールが外に飛び出すことを防止する構造であること

短辺：4M 長辺：8M 高さ：3M

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より1M以上

スターティングポイント : 短辺より1M以上

ゴール位置 : 短辺より1M以上

ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで1.5M～2M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：50cm(±1cm) 内径：30cm(±1cm) 厚み：10cm(±1cm)

Ⅲ：【class20 公式試合サイズ②】国内規格

サイズ ※必ず4辺と天井を覆う構造であること

※ドローンボールが外に飛び出すことを防止する構造であること

短辺：3M 長辺：6M 高さ：2.4M～3M

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より1M以上

スターティングポイント : 短辺より1M以上

ゴール位置 : 短辺より1M以上

ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで1.5M～2M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：50 cm (±1 cm) 内径：30 cm (±1 cm) 厚み：10 cm (±1 cm)

【認定試合フィールド規定】

JDSF 本部が認定する認定試合やカジュアルな大会で使用するフィールド規定

Ⅳ：【class40 認定サイズ】国内規格

サイズ ※必ず4辺と天井を覆う構造であること

※ドローンボールが外に飛び出すことを防止する構造であること

短辺：4M 長辺：8M 高さ：3M～3.5M

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より2M以上

スターティングポイント : 短辺より1M以上

ゴール位置 : 短辺より1M以上

ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで1.5M～2M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：100 cm (±1 cm) 内径：60 cm (±1 cm) 厚み：20 cm (±1 cm)

Ⅴ：【class20 認定サイズ①】国内規格

サイズ ※必ず4辺と天井を覆う構造であること

※ドローンボールが外に飛び出すことを防止する構造であること

短辺：4M 長辺：8M 高さ：3M～3.5M

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より1M以上

スターティングポイント : 短辺より1M以上

ゴール位置 : 短辺より1M以上

ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで1.5～2M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：50 cm (±1 cm) 内径：30 cm (±1 cm) 厚み：10 cm (±1 cm)

VI：【class20 公式・認定サイズ②】日本国内規格

サイズ ※必ず4辺と天井を覆う構造であること

※ドローンボールが外に飛び出すことを防止する構造であること

短辺：3M 長辺：6M 高さ：2.4M～3M

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より1M以上

スターティングポイント : 短辺より1M以上

ゴール位置 : 短辺より1M以上

ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで1.5M～2M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：50 cm (±1 cm) 内径：30 cm (±1 cm) 厚み：10 cm (±1 cm)

例外措置：【class40 (40 cm機体)】(特別版)

- ・ドローンサッカーは風雨による影響を回避するため屋内で行うことが前提であるが、大型スカイフェンスを設置する際、屋外に設置することを例外的に認めます。

サイズ ※必ず4辺と天井を覆う構造であること

※ドローンボール外に飛び出すことを防止する構造であること

短辺：7M 長辺：16M 高さ：5M を基本とする

(サイズ許容範囲：競技場のサイズは、短辺5～10m、長辺10～20mでも可)

(長辺と短辺の比率は2：1であるか、それに近い比率とすること)

競技場の高さは4m～5mで、破損の可能性があるものや競技に影響を与える障害物を設置してはならない。

床面に中心線を設ける

操縦スペース : 短辺より2M以上

スターティングポイント : 短辺より1.5M以上

ゴール位置 : 短辺より1.5M以上

ゴール高さ : 地面よりゴール中心まで3M～3.5M ※左右に揺れない構造

ゴールサイズ 外形：100 cm (±1 cm) 内径：60 cm (±1 cm) 厚み：20 cm (±2 cm)

上記規定する

4) ドローンボール

Class40 (40 cmサイズ) ドローンボール規定

- ・使用するドローンボールはオートバックスセブンが販売する公式機体を使用すること
- ・丸い外骨格で覆う形状で直径 40 cm±2 cm
 - ※専用のガードを使用すること
 - ※ペンタガード、ボトムガードへの着色は認められない
- ・装備重量 1,100g 以下
(試合で使用する BT を装着した状態で測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
- ・外骨格の解放面の単一面積が 150 cm²以下
- ・商業広告の禁止
- ・所属チームと相手チームのドローンボールは全ての方向で確認可能な色の変更可能な LED 装置をつけること (赤・青必須)
- ・ストライカーのドローンボールも他のドローンボールと確実に区別できること
- ・ストライカーとわかるよう機体にストライカーシール・タグを装着すること
(競技主催者より支給) (ガイド用シール・タグ必要)

Class20 (20 cmサイズ) ドローンボール規定

- ・使用するドローンボールはオートバックスセブンが販売する公式機体を使用すること。
- ・丸い外骨格で覆う形状で直径 20 cm±1 cm
 - ※専用のガードを使用すること
 - ※TOP ガード、ボトムガードへの着色は認められない
- ・装備重量 100 g 以下
(専用 BT 非装着測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
- ・外骨格で覆われていなければならない
- ・商業広告の禁止
- ・所属チームと相手チームのドローンボールは確実に区別できなければならない
- ・ストライカーのドローンボールも他のドローンボールと確実に区別できること
- ・ストライカーとわかるよう機体にストライカーシール・タグを装着すること
(競技主催者より支給)

5) 競技者

選手の装備規定

- ・服装は自由であるが明確にチームメンバーがわかることが必要
(帽子、制服、ベスト、A4 サイズ以上の標識いずれか)
- ・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨

- ・ 1 人称映像装置着用、携帯が可能
- ・ 予備のドローンボールの準備可（セット中の交換不可）
- ・ 禁止事項
 - ① 相手のプレーを阻害する「発光装置・電波発信機」を装着及び携帯すること
 - ② 競技の進行を阻害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること
 - ③ 競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

6) 審判員の構成

ジャッジメント

- ・ 競技会のジャッジメントは日本ドローンサッカー連盟公式審判員にて行われる
- ・ 主審、副審の資格は別途規定に沿って定め認定される
- ・ 主審 1 名、副審 2 名で構成する
 - (得点とペナルティの正確な判定のため副審の数を 4 人に増員することもできる)
- ・ 主審及び副審にてジャッジし、主審が権限と裁量を持つ
- ・ 主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・ 主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・ 副審は 2 (4) 名設置し、両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
- ・ 副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる

7) 大会規則

ドローンサッカー®認定機体のドローンボールを使用して行われる「ドローンサッカー®トーナメント」はドローンボールの大きさによってクラスが分かれ、20 cm機体 (SKYKICK) を使用する「class20」・40 cm機体を使用した「class40 Challenge 3 × 3」・「class40 Extreme」など、ドローンボールの仕様、チームの出場経験によってクラス分けを行いレベルに応じた運営を行う

※国際大会では 40 cm機体を class40 20 cm機体を class20 と表現する

大会規則の基本は以下の通りであるが、大会主催者が事前に定めて公表する内容については、公式審判員は良く把握し適正な競技会の運営に努めなければならない

以下に基本的な大会規則を記します

I : 【大会規則】 class40 Challenge 3 × 3 ・ Extreme (40 cm機体)

II : 【大会規則】 class20 (20 cm機体)

III : 【ドローンサッカー® クラス・ランキング】

IV : 機体検査項目

(2022年4月15日改訂)

(2022年6月2日改訂)

(2023年4月1日改訂)

(2024年4月1日改訂)

I：【大会規則】 class40 Challenge 3 × 3 ・ Extreme (40 cm機体)

第1条 クラス分け

「ドローンサッカー®ポイントシステム」を導入し、大会結果に連動した獲得ポイントによりランキングに反映されます

1. 出場ポイント (2022年度からの累積換算)

ドローンサッカー®トーナメント出場回数をもとに設定

- ・累積10回以下のチーム・・・公式試合・認定試合のいずれかの出場=1ポイント付与
- ・11回以上のチーム・・・一律15ポイント付与(15ポイントが上限で固定される)

2. 成績ポイント (2022年度から換算開始)

当年と前年の試合成績をもとに設定(過年度のポイントは消滅する)

- ・試合成績で一定のポイントを付与

1) class40 Challenge 3 × 3

- ・優勝：5P付与
- ・2位入賞：3P付与
- ・3位入賞：1P付与

2) class40 Extreme

- ・優勝：10P付与
- ・2位入賞：5P付与
- ・3位入賞：3P付与

出場ポイントと成績ポイントを合計したものが「ドローンサッカー®トーナメントポイント」となります

各チームのポイントは随時更新され、日本ドローンサッカー®連盟事務局よりランキング発表を行います

第2条 競技用ドローンボール（認定機体）

1. 競技用ドローンボールの種類

ドローンサッカー®トーナメントに使用できるドローンボールは、発売元のオートバックスセブンの認定機体であるXR D-SOCCER AN-S075Bとします

※詳細は大会申込用紙に明示されます

2. 競技用ドローンボールの仕様（詳細は大会申込用紙をご覧ください）

すべての競技用ドローンボールは認定機体に限られます

- ・認定機体であることを証明する「Drone Soccer 認定カード」を提示できるよう携帯すること
- ・外側のガード部は丸い外骨格で覆う形状で直径40 cm±2 cmであること。
※専用のガードを使用すること
※ペンタガード、ボトムガードへの着色は認められない
- ・装備重量1,100g以下
(試合で使用するBTを装着した状態で測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
- ・外骨格の開放面の単一面積が150 cm²以下であること
- ・商業広告禁止
- ・ストライカーとガイドは他の機体とは確実に区別できなければならない
- ・所属チームと相手チームの区分けが可能であること。(LEDカラー照明の点灯)
- ・全ての方向で確認可能な色の変更が可能なLED装置を付けること(赤・青必須)
- ・予備機体は、あらかじめ機体検査を受けて認められることが必要です
- ・セット中は正規機体と予備機体及び他選手の機体との交換は認められません
- ・競技機体の仕様は上記を原則とし使用可能なパーツ等については別途規定します

第3条 モーター

市販されているモーターはすべて使用可能です

但し極端な改造を施したものや、機体検査の際に構造上安全でないと大会運営事務局が判断した場合は、使用することはできません

第4条 バッテリー

バッテリーは一般的に購入可能な製品に限り使用可能です

推奨仕様はリチウムポリマーバッテリー 4セル 14.8V - 2200mAh 80C がパワー、持続性、重量のバランスが取れておりおすすめいたしますが、4セル以下で上記装備重量内であれば他のバッテリーを使用することが出来ます

但し無加工・無改造で使用することとし、コネクタ端子や外装フィルムなどを個人で修理、変更したものは使用できません

第5条 送信機

法律で定められた周波数の範囲内の電波を使用し、大会の参加には 2.4GHz 帯プロボが必要です。(一財)日本ラジコン電波安全協会の登録シールが貼られたものを使用すること
なお、身体の障がい等のサポートを行う補器類の装着は認められます

第6条 選手構成 (class40 Challenge 3×3の選手構成は別途の競技規則に規定しています)

1 チーム最大 10 名以下で構成する (選手 7 名以下、コーチ 3 名以下)

コーチが選手を兼ねることは可

・選手は複数のチームを跨いで競技に参加できない (移籍することは可)

・シーズンにおいて他のチームに移籍することは可能

但し元の所属チームに戻る移籍はできない

※シーズン = (4/1-3/31)

※次のシーズンに元の所属チームに移籍することは可能

・選手は大会の前に登録することが必要

・選手構成は「ストライカー1名」「ガイド1名」「リベロ1名」「スーパー1名」

「キーパー1名」とする

・フィールドの「操縦スペース」には選手・コーチのみが立ち入ることが出来る

・選手総員 3 名以上いない場合そのセットは負けとなる

・セット中の選手交代や送信機の交換は不可とする

・インターバルタイムを利用した選手の交代は可能

交代する選手が交代する前の選手のドローンボールを使用することができる

・競技に参加している選手以外は送信機の操作は禁止される。(操作時は失格となります)

第7条 選手の服装・携行品規定

・服装は自由であるが明確に同一チームとわかることが必要で、帽子、制服、ベスト

A4 以上の標識のいずれかを利用すること

・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨

・1 人称映像装置の着用、携帯が可能です。但し法規に適合した機材の運用を厳守すること

・禁止事項

1) 相手のプレーを阻害する「発光装置・電波発信機」を装着及び携帯すること

2) 競技の進行を阻害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること

3) 競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

第8条 機体検査

すべての機体は、競技規定を満たすものであるか競技前に機体検査を行います
規則に反する部分がある場合は、修正されない限り競技へ参加できません

競技機体の違反については使用選手がその責任を負います

第9条 競技の成立

天候やフィールド設備の不備などにより競技続行が不可能と判断された場合、1セット以上の競技が完了されていれば競技成立とみなし、完了セットや試合の成績をもって順位が決定されます

第10条 競技の不成立

天候または参加者の人数により、競技を行うことが困難と判断された場合、競技不成立として中止となります

第11条 日本ドローンサッカー連盟が主催する大会・イベントにおける免責事項

日本ドローンサッカー連盟が主催（以下「主催者」）する大会・イベントでは、下記免責事項を定めます

1. 主催者の判断で、天候・その他の事情により大会・イベントの開催を中止する場合があります
2. 参加費をお支払いいただく有料の大会・イベントが中止となった場合、お支払いいただいた参加費以上の返金・補償はいたしかねます
天候・その他の事情により、有料の大会・イベントが開催途中で中止された場合、参加費の返金は競技が成立していない選手に対してのみ行うものとし、競技が成立している選手への返金はいたしかねます（第9条に則します）
3. 参加費不要の大会・イベントにおいて、天候・その他の事情により開催の中止が決定した場合、選手への補償はいたしかねます
4. 主催者は大会・イベント開催期間内において発生した一切の事故や怪我・病気などの責任を負いかねますことをあらかじめご了承ください
参加選手および保護者または付き添い者は、自己責任において保険への加入を行ってください
5. 貴重品は選手の責任で管理するものとし、会場で発生した盗難・紛失について、主催者は一切の責任を負いません
6. 大会・イベントへ参加するに当たっての往路・帰路等移動途中の事故・怪我・病気等に対しても責任を負いません
7. 主催者は、何ら通知することなく、当サイトまたはサイトに掲載した情報の訂正、修正、追加、削除等をいつでも行うことができます

※この大会規則に掲載されていない事項については主催者の決定によるものとします

上記規定する

ドローンサッカー®大会規則(2020年4月20日制定) (2020年12月23日改訂)
(2022年4月15日改訂)
(2022年6月2日改訂)
(2023年4月1日改訂)
(2024年4月1日改訂)

II：【大会規則】 class20 (20 cm機体)

第1条 クラス分け

「ドローンサッカー®ポイントシステム」を導入し、大会結果に連動した獲得ポイントによりランキングに反映されます

1. 出場ポイント (2022年度からの累積換算)

ドローンサッカー®トーナメント出場回数をもとに設定

- ・累積10回以下のチーム・・・公式試合・認定試合のいずれかの出場=1ポイント付与
- ・11回以上のチーム・・・一律15ポイント付与 (15ポイントが上限で固定される)

2. 成績ポイント

当年と前年の試合成績をもとに設定 (2022年度から換算開始)

※過年度のポイントは消滅する

- ・試合成績で一定のポイントを付与
- ・優勝：10P付与
- ・2位入賞：5P付与
- ・3位入賞：3P付与

3. トーナメントポイント

出場ポイントと成績ポイントを合計したものが「ドローンサッカー®トーナメントポイント」となります。各チームのポイントは随時更新され、日本ドローンサッカー®連盟事務局よりランキング発表を行います

※上記の他にも、大会によって特別に企画追加される大会仕様があります
募集内容、参加資格などは各大会の申込用紙に明示されます

第2条 競技用ドローンボール (認定機体)

1. 競技用ドローンボールの種類

ドローンサッカー®トーナメントに使用できるドローンボールは、発売元のオートバックスセブンの認定機体であるXR D-SOCCER SKYKICKとします

※詳細は大会申込用紙に明示されます

2. 競技用ドローンボールの仕様 (詳細は大会申込用紙に明示されます)

すべての競技用ドローンボールは認定機体に限られます

オートボックスセブンより販売されるオプションパーツは指定の方法で使い、他社製および自作パーツの使用に関しては大会前の機体検査での承認が必要です

- ・認定機体であることを証明する「Drone Soccer 認定カード」を提示できるよう携帯すること
- ・外側のガード部は丸い外骨格で覆う形状で直径 20 cm ± 1 cm であること
 - ※専用のガードを使用すること
 - ※TOP ガード、ボトムガードへの着色は認められない
- ・装備重量 100g 以下
(専用バッテリー非装着・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
- ・専用の外骨格で覆われていなければならない
- ・商業広告禁止
- ・ストライカーと他の機体とは確実に区別できなければならない
- ・所属チームと相手チームの区別が可能であること (LEDカラー照明の点灯)
予備機体は、機体検査を受けて認められることが必要です
- ・セット中は正規機体と予備機体及び他選手の機体との交換は認められません
- ・インターバルタイムを利用した選手の交代は可能
交代する選手が交代する前の選手のドローンボールを使用することができる
- ・競技機体の仕様は上記を原則とし使用可能なパーツ等については別途規定します

第3条 モーター

純正品又は、オプション品でモーターマウントの枠からはみ出ることなく装着されたモーターのみ使用可能です

フレームに改造を施して装着されたものや、機体検査の際に安全でないと大会運営事務局が判断した場合は使用することはできません

第4条 プロペラ

認定機体同梱品もしくは、オートボックスセブンが販売する純正品同等品及び、純正品同等品と同形状の市販品に限り使用できます

機体検査の際に安全でないと大会運営事務局が判断した場合は使用することはできません

第5条 バッテリー

バッテリーは SKYKICK 専用バッテリーのみ使用可能です

第6条 送信機

セットで指定された送信機のみが使用できる

又、無加工・無改造で使用するとし、個人で修理、変更したものは使用できません
但し、送信機の着色や身体の障がい等のサポートを行う補器類の装着は認められます

第7条 選手構成

1 チーム最大10名以下で構成する（選手7名以下、コーチ3名以下）

コーチが選手を兼ねることは可

- ・選手は複数のチームを跨いで競技に参加できない。（移籍することは可）

- ・シーズンにおいて他のチームに移籍することは可能

但し元の所属チームに戻る移籍はできない

※シーズン＝（4/1-3/31）

※次のシーズンに元の所属チームに移籍することは可能

- ・選手は大会の前に登録することが必要

- ・選手構成は「ストライカー2名」「フィールドプレイヤー3名」とする

- ・フィールドの「操縦スペース」には選手・コーチのみが立ち入ることが出来る

- ・選手総員2名以上いない場合そのセットは負けとなる

- ・セット中の選手交代や送信機の交換は不可とする

- ・インターバルタイムを利用した選手の交代は可能

交代する選手が交代する前の選手のドローンボールを使用することができる

- ・競技に参加している選手以外は送信機の操作は禁止される（操作時は失格となります）

第8条 選手の服装・携行品規定

- ・服装は自由であるが明確同一チームとわかることが必要で、帽子、制服、ベスト

A4以上の標識のいずれかを利用すること

- ・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨

- ・1人称映像装置の着用、携帯が可能です。但し法規に適合した機材の運用を厳守すること

- ・禁止事項

- 1) 相手のプレーを阻害する「発光装置・電波発信機」を装着及び携帯すること

- 2) 競技の進行を阻害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること

- 3) 競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

第9条 機体検査

すべての機体は、競技規定を満たすものであるか競技前に機体検査を行います。

規則に反する部分がある場合は、修正されない限り競技へ参加できません

競技機体の違反については使用選手がその責任を負います

第 10 条 競技の成立

天候やフィールド設備の不備などにより競技続行が不可能と判断された場合、1 セット以上の競技が完了されていれば競技成立とみなし、完了セットやゲームの成績をもって順位が決定されます

第 11 条 競技の不成立

天候または参加者の人数により、競技を行うことが困難と判断された場合、競技不成立として中止となります

第 12 条 日本ドローンサッカー連盟が主催する大会・イベントにおける免責事項

日本ドローンサッカー連盟が主催（以下「主催者」）する大会・イベントでは、下記免責事項を定めます

1. 主催者の判断で、天候・その他の事情により大会・イベントの開催を中止する場合があります

2. 参加費をお支払いいただく有料の大会・イベントが中止となった場合、お支払いいただいた参加費以上の返金・補償はいたしかねます

天候・その他の事情により、有料の大会・イベントが開催途中で中止された場合、参加費の返金は競技が成立していない選手に対してのみ行うものとし、競技が成立している選手への返金はいたしかねます。（第 10 条に則します）

3. 参加費不要の大会・イベントにおいて、天候・その他の事情により開催の中止が決定した場合、選手への補償はいたしかねます

4. 主催者は大会・イベント開催期間内において発生した一切の事故や怪我・病気などの責任を負いかねますことをあらかじめご了承ください

参加選手および保護者または付き添い者は、自己責任において保険への加入を行ってください

5. 貴重品は選手の責任で管理するものとし、会場で発生した盗難・紛失について、主催者は一切の責任を負いません

6. 大会・イベントへ参加するに当たっての往路・帰路等移動途中の事故・怪我・病気等に対しても責任を負いません

7. 主催者は、何ら通知することなく、当サイトまたはサイトに掲載した情報の訂正、修正、追加、削除等をいつでも行うことができます

※この大会規則に掲載されていない事項については主催者の決定によるものとします

上記規定する

ドローンサッカー®大会規則(2020年4月20日制定) (2020年12月23日改訂)
(2022年4月15日改訂)
(2022年12月7日改訂)
(2023年4月1日改訂)
(2024年4月1日改訂)

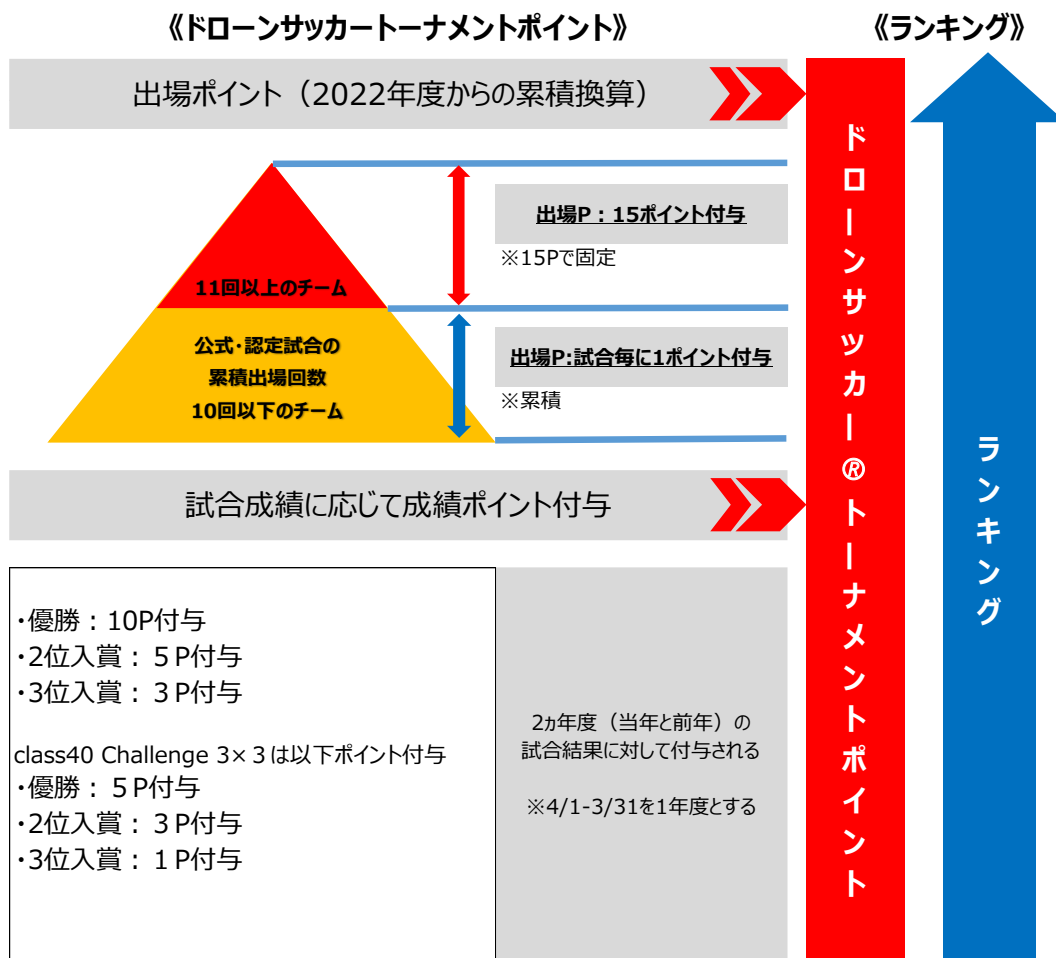
Ⅲ：【ドローンサッカー® クラス・ランキング】

【ランキングの考え方】

- ドローンサッカー®トーナメントポイントは2ヵ年度累計算出（経過年度スライド換算）
- 上記をランキングに適用
- ランキングは2種
 - ①生涯ランキング（直近2ヵ年度間の累計ランキング）
 - ②単年度ランキング 4月～3月対象

【称号について】

ドローンサッカー®トーナメントポイントの獲得に応じて単年度毎に称号を付与して単年度シーズンチャンピオンとして登録いたします



上記規定する

IV：機体検査項目

公式・認定の競技会においては競技前に主催者により厳正に検査を行うこととし、検査員より指示された箇所は速やかに訂正しなければならない
訂正が認められない場合は参加資格を喪失し、試合結果を無効とする

機体検査項目 class40

- ・ Drone Soccer 認定カードと機体シリアル適合
- ・ 指定の外骨格を使用すること（無加工無着色の純正品の使用）
- ・ 外骨格の開放面の単一面積が 150 cm²以下
- ・ 機体の直径が 40 cm（±2 cm）以内
- ・ 装備重量が 1,100g 以下
（バッテリー装着状態で測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外）
- ・ 全方向で確認可能な色の変更が可能な LED 装置を付けること（赤・青 必須）
- ・ モーターに極端な改造が認められないこと
- ・ バッテリーは無加工・無改造で使用する
（コネクター端子や外装フィルムなどを個人で修理、変更したものは不可）
- ・ 送信機は日本ラジコン電波安全協会の登録シールが貼られたものを使用すること
※身体の障がいに対応するスティックの加工などは認められる
- ・ 予備機体を用いる場合は、正規機体同様に機体検査が必要

機体検査項目 class20

- ・ Drone Soccer 認定カードと機体シリアル適合
- ・ 指定の外骨格を使用すること（無加工無着色の純正品の使用）
- ・ 機体の直径が 20 cm（±1 cm）以内
- ・ 装備重量が 100g 以下
（専用 BT 非装着測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外）
- ・ LED 装置が正常に点灯すること（赤・青 必須）
- ・ モーターは純正品又は、オプション品のモーターマウントの枠からはみ出ることなく装着されたモーターのみ使用可能。フレームに改造を施して装着されたものや、機体検査の際に安全でないと大会運営事務局が判断した場合は使用不可
- ・ プロペラは、認定機体同梱品もしくは、オートボックスセブンが販売する純正品同等品及び純正品同等品と同形状の市販品に限り使用可能
機体検査の際に安全でないと大会運営事務局が判断した場合は使用不可
- ・ バッテリーは無加工・無改造で使用する
（コネクター端子や外装ケースなどを個人で修理、変更したものは不可）

- ・送信機は SKYKICK 専用品を無加工で使用する事
※送信機への着色や身体障がい等のサポートを行う補器類の装着は認められません
- ・予備機体を用いる場合は、正規機体同様に機体検査が必要

上記規定する

8) 競技規則

○公式試合・認定試合に適用

I 【公式】 ドローンサッカー®トーナメント class40 Extreme

II 【公式・認定】 ドローンサッカー®トーナメント class20

III 【認定】 ドローンサッカー®トーナメント class40 Challenge 3×3

※認定試合=JDSF 公式審判員が3名以上在籍し、フィールド規定、競技規則を履行できる支部に対してJDSF本部が認定する大会(試合)であり、支部からの申請により開催し、1シーズンでclass毎にそれぞれ4回まで開催することができる。トーナメントポイントは、公式試合、認定試合において付与されランキングに反映されます。

上記規定する

ドローンサッカー®競技規則(2020年4月20日制定) (2020年12月23日改訂)
(2022年4月15日改訂)
(2023年4月1日改訂)
(2024年4月1日改訂)

I 【公式】ドローンサッカー®トーナメント class40 Extreme

競技ルール

○選手とチーム

- ・競技に参加するチームは最大10名とし、選手7名以下、コーチ3名以下で構成される
- ・「操縦スペース」には試合中の選手・コーチのみが立ち入れる
- ・選手は5名、ドローンボールは5台とする
- ・選手構成は「ストライカー1名」「ガイド1名」「リベロ1名」「スウィーパー1名」「キーパー1名」とする
- ・チームのポジション（役割）は上記の通りであり、チーム内でポジションが重複してはならない ※国際規格の競技会ではポジションLEDの装着が義務となります
- ・選手は1台のドローンボールをコントロールするものとし、従って選手数とドローンボール数は同じとする
- ・人数が足りない場合や、ドローンボールに問題が生じた場合は、最低3名以上の選手（ドローンボール）で試合を行うことができる
- ・事前に試合開始時刻を告知したにも関わらず、試合開始前にストライカーを含む3名以上の選手が操縦スペースにいない場合、そのチームは試合を放棄したものとみなされる
- ・試合の第2セット、又は、第3セットにおいて、セット開始前に3名以上の選手が操縦スペーススペースにいない場合、そのセットはそのセットはセット敗とされ、次のセットに向けたインターバルタイム開始が宣言される

○選手交代

- ・選手交代はセット開始前に行うこと。セットのプレー中に選手交代はできない
- ・選手リストに登録されている選手であれば交代は可能で交代回数に制限はない
- ・選手リストに登録されているコーチが選手として出場することも可能

○交代手順

- ・選手交代する場合は、交代する選手を審判に通知しなければならない
- ・通知するタイミングは、ドローンボールがスカイフェンスに入る前に審判に申告しなければならない
- ・交代選手のドローンボールの重量とマーキングを検査しなければならない
- ・交代前の選手が使用していたドローンボールをそのまま使用してもよい

その場合、機体検査は省略される

○セット中のストライカー交代

- ・ストライカーがセット中にセットを放棄した場合、ストライカーの役割をガイドに交代することができる
- ・ストライカーを交代する場合は放棄したストライカーのドローンボールを、ガイドのドローンボールがタッチしなければならない
- ・ガイドがストライカーにタッチする場合は、ストライカーが放棄宣言をして、送信機を床に置いた後になる。タッチの成功可否は主審が判断する
- ・交代が成功した場合、主審は交代の結果を告知しなければならない

○ジャッジメント

- ・競技会のジャッジメントは、日本ドローンサッカー連盟公式審判員にて行われる
- ・主審、副審の資格は別途規定に沿って認定される
- ・審判員は主審及び副審で構成し、主審が権限と裁量を持つ
- ・主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・主審は必要に応じて主催者がジャッジを目的に設置した映像装置での確認を行えるその際の判定は何度でも可能。(映像装置が設置されている場合)
- ・副審は2名設置し、両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
(得点とペナルティの正確な判定のため、副審の数を4名に増員することもできる)
- ・副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる

○競技時間

- ・1セット3分ずつ行い 3セット対戦
- ・セットの進行中は、作戦タイム等を行えない
- ・セット間のインターバルは、すべての選手のドローンボールが回収された後に5分間が宣言され、「整備」と「作戦タイム」を行うことができる
(時間は主審が決定し、あらかじめ告知する)
- ・インターバルの中で「整備」が間に合わない場合でも時間延長は行わない
- ・次のセットに入るとき1チームで選手が3名以上いない場合、該当チームはセット敗となりその際は主審により次のセットまでのインターバルを宣言し、更に3分間を追加して付与できる
- ・競技開始10秒前の宣言より、セット終了までは競技を中断できない
(安全上の問題や公平な競技が継続できない場合は主審ジャッジで中断できる)
- ・中断後に上記が改善した場合、残時間にて競技を再開することができる

○無効試合になる場合

- 1) スカيفェンスの崩壊、ドローンボールがスカيفェンス外に出た場合
- 2) 競技場の施設破損などで負傷者が出た場合
- 3) 停電や運営システムの不具合が発生した場合

○競技の進行方法

・競技前

- 1) コイントスで左右の操縦スペースの選択を行う。 ※3セット変更不可
※主催者側があらかじめ試合毎の操縦ゾーンを定めることも出来る
- 2) 両チームのキャプテンは、ゴールの状態を確認することが出来る

・スタートと終了

- 1) スタートと終了は音響もしくはアナウンスにて予告される
- 2) 競技のスタート・終了はあらかじめ 10 秒前の予備信号もしくはアナウンスにより告知される
- 3) 上記は最低各 1 回以上告知され、回数は増やすことが出来る
- 4) ドローンボールがスターティングポイント、選手が操縦スペースに揃った時点で主審により予備信号もしくはアナウンスが告知される。
- 5) スタートと終了は予備信号の後、ジャストタイムで手信号もしくは音響で告知される。

○ポイント

・ポイントの獲得

- 1) 相手チームのゴールにストライカーのドローンボールが完全に通過すること
- 2) ゴール裏側からのゴールは認められない

・連続ポイント制限（オフサイド）

- 1) 連続ポイントを抑制するためポイントを獲得したチームのすべてのドローンボールはハーフラインを完全に超えて自陣内に戻らなければならない
- 2) 相手の陣で制御できない状態になった場合は、副審へ申告して操縦スペースから退去（リタイヤ）すること
- 3) 相手のドローンボールが自陣へ帰ることを意図的に阻み、相手の追加ポイント時間を延ばす行為は可
- 4) 上記規定を遵守できない場合はポイント無効及びペナルティを与えられる
 - 1) オフサイド状態の得点は無効且つ、ペナルティを与えられる
 - 2) ストライカー以外はドローンボールで自陣ゴールを背面から前方に通過したり、ゴール内部の背面を超えて留まってはならない

・ペナルティの適用

- 1) 競技スタート信号より前に離陸した場合
(この場合は即座に相手チームに 1 得点が付与される)

- 2) オフサイド規定を無視して連続得点を行った場合
- 3) ストライカー以外がドローンボールで自陣ゴールを背面から前方に通過したり、ゴール内部の背面を超えて留まった場合

○ペナルティキック

- ・1セットで両チームのペナルティ数を相殺して、1チームにのみペナルティキックが与えられる
- ・タイミング：毎セット終了後、ペナルティキックに出場するストライカーとキーパーはバッテリー交換後、ペナルティキックの準備を行う
- ・方法：ストライカーとキーパーの1対1
ストライカーはハーフライン、キーパーはスターティングポイントに位置する
- ・時間：ペナルティ1回あたり5秒 時間内であれば連続ポイント可
(上記連続ポイント規定適応)
- ・ペナルティキックの終了後、両チームの選手のドローンボールが回収された後に5分間のインターバルタイムが付与される

○ペナルティの得点換算措置

- ・ペナルティキックを行わず、ペナルティの数を得点に置き換えて得点に変えることが出来る
- ・競技スタート信号より前に離陸した場合はその時点で相手チームに1得点付与される
- ・1ペナルティあたり、0.8ポイントとして換算し、合計ポイントの小数点以下を切り捨てて算出して、相手チームの得点に加算する
- ・上記は大会規定で事前に告知される

○競技中のストライカーシール・タグ脱落時の対応、及び色の使用 (LED含む)

- ・競技中にストライカーシール・タグが脱落し、ストライカーやガイドの認識が難しい場合、脱落した瞬間からの得点は認めない
- ・チーム区分、ポジション区分に障害となる過度な色の使用 (LED含む) を禁止する
- ・ドローンボールの方向識別などのために追加のLEDを装着することは許容されるが色はポジションに合った色でなければならない

○勝敗

- ・1セットで得たポイント数の優勢チームがそのセットを獲得する
- ・両チームが同ポイントもしくは無得点の場合は引き分けとする
- ・3セットの内、多くセットを持ったチームが勝者となる

○引き分け

- ・獲得セット数が同一の場合、1回3分の延長戦もしくは、PK戦をおこなう
但し、大会規定において全セットの総得点で勝敗判定を行う場合もある

- ・大会規定で引き分けが認められる場合、延長戦とPK戦は行わない

○PK戦

- ・ペナルティキックと同様の規定で行う
- ・両チームそれぞれ3名が交代で5秒間ずつ実施し、総得点で勝敗を決定する

○反則・不法行為

- ・反則と不法行為には警告、セット敗、競技敗、があり同じ競技で3回の累積警告で競技敗となる
- ・同じ理由で警告を2回受けた場合、セット敗となる
- ・警告について
 - 1) 競技選手・コーチ以外が操縦スペースに留まっているとき
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して軽微な非紳士的な行為をしたとき
 - 3) 競技中のドローンボールに意図的に身体が接触した場合
 - 4) 事前了承無し、整備不良などで意図的に競技を遅延させた場合
 - 5) 競技開始の信号前にドローンボールを動かした場合
- ・セット敗について
 - 1) 競技中の選手以外が操作した場合
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して重大な非紳士的な行為をしたとき
 - 3) 競技中のドローンボールに意図的に手、足、器具などで触れた場合
- ・競技敗について
 - 1) 故意にドローンボールを利用して他人に脅威を与えるなど安全上の落ち度がある場合
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して深刻な非紳士的な行為をしたとき

上記規定する

ドローンサッカー®競技規則(2020年4月20日制定) (2020年12月23日改訂)
(2022年4月15日改訂)
(2023年4月1日改訂)
(2024年4月1日改訂)

II 【公式・認定】ドローンサッカー®トーナメント class20

競技ルール

○選手とチーム

- ・競技に参加するチームは最大10名とし、選手7名以下、コーチ3名以下で構成される
- ・「操縦スペース」には試合中の選手・コーチのみが立ち入れる
- ・選手は5名、ドローンボールは5台とする
- ・選手構成は「ストライカー2名」「フィールドプレイヤー3名」とする
※フィールドプレイヤー：ゴールのディフェンスやストライカーのアシストをするプレイヤーの総称
- ・選手は1台のドローンボールをコントロールするものとし、従って選手数とドローンボール数は同じとする
- ・人数が足りない場合や、ドローンボールに問題が生じた場合は、最低2名以上の選手（ドローンボール）で試合を行うことができる
- ・事前に試合開始時刻を告知したにも関わらず、試合開始前にストライカーを含む2名以上の選手が操縦スペースにいない場合、そのチームは試合を放棄したものとみなされる
- ・試合の第2セット、又は、第3セットにおいて、セット開始前に2名以上の選手が操縦スペーススペースにいない場合、そのセットはそのセットはセット敗とされ、次のセットに向けたインターバルタイム開始が宣言される

○選手交代

- ・選手交代はセット開始前に行うこと。セットのプレー中に選手交代はできない
- ・選手リストに登録されている選手であれば交代は可能で、交代回数に制限はない
- ・選手リストに登録されているコーチが選手として出場することも可能

○交代手順

- ・選手交代する場合は、交代する選手を審判に通知しなければならない
- ・通知するタイミングは、ドローンボールがスカイフェンスに入る前に審判に申告しなければならない
- ・交代選手のドローンボールの重量とマーキングを検査しなければならない
- ・交代前の選手が使用していたドローンボールをそのまま使用してもよい
その場合、機体検査は省略される

○ジャッジメント

- ・競技会のジャッジメントは、日本ドローンサッカー連盟公式審判員にて行われる
- ・主審、副審の資格は別途規定に沿って認定される
- ・審判員は主審及び副審で構成し、主審が権限と裁量を持つ
- ・主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・主審は必要に応じて主催者がジャッジを目的に設置した映像装置での確認を行える
その際の判定は何度でも可能。(映像装置が設置されている場合)
- ・副審は2名設置し、両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
(得点とペナルティの正確な判定のため、副審の数を4名に増員することもできる)
- ・副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる

○競技時間

- ・1セット3分ずつ行い 3セット対戦
- ・セットの進行中は、作戦タイム等を行えない
- ・セット間のインターバルは、すべての選手のドローンボールが回収された後に5分間が宣言され、「整備」と「作戦タイム」を行うことができる
(時間は主審が決定し、あらかじめ告知する)
- ・インターバルの中で「整備」が間に合わない場合でも時間延長は行わない
- ・次のセットに入るとき1チームで選手が3名以上いない場合、該当チームはセット敗となりその際は主審により次のセットまでのインターバルを宣言し、更に3分間を追加して付与できる
- ・競技開始10秒前の宣言より、セット終了までは競技を中断できない
(安全上の問題や公平な競技が継続できない場合は主審ジャッジで中断できる)
- ・中断後に上記が改善した場合、残時間にて競技を再開することができる

○無効試合になる場合

- 1) スカイフェンスの崩壊、ドローンボールがスカイフェンス外に出た場合
- 2) 競技場の施設破損などで負傷者が出た場合
- 3) 停電や運営システムの不具合が発生した場合
- 4) 主審は無効試合に至った要因を除去出来てから改めて試合を行うことができる。

○競技の進行方法

- ・競技前
 - ・コイントスで左右の操縦スペースの選択を行う ※3セット変更不可
 - ・スタートと終了
 - 1) スタートと終了は音響もしくはアナウンスにて予告される
 - 2) 競技のスタート・終了はあらかじめ10秒前の予備信号もしくはアナウンス

により告知される

4) スタートと終了は予備信号の後、ジャストタイムで手信号と音響で告知される

○ポイント

・ポイントの獲得

- 1) 相手チームのゴールにストライカーのドローンボールが完全に通過すること
- 2) ゴール裏側からのゴールは認められない

・連続ポイント制限（オフサイド）

- 2) 連続ポイントを抑制するためポイントを獲得したチームのすべてのドローンボールはハーフラインを完全に超えて自陣内に戻らなければならない
- 2) 相手の陣で制御できない状態になった場合は、副審へ申告して操縦スペースから退去（リタイヤ）すること
- 3) 相手のドローンボールが自陣へ帰ることを意図的に阻み、相手の追加ポイント時間を延ばす行為は可
- 4) 上記規定を遵守できない場合はポイント無効及びペナルティを与えられる
 - 1) オフサイド状態の得点は無効且つ、ペナルティを与えられる
 - 2) ストライカー以外はドローンボールで自陣ゴールを背面から前方に通過したり、ゴール内部の背面を超えて留まってはならない

・ペナルティの適用

- 1) 競技スタート信号より前に離陸した場合
(この場合は即座に相手チームに1得点が付与される)
- 2) オフサイド規定を無視して連続得点を行った場合
- 3) ストライカー以外がドローンボールで自陣ゴールを背面から前方に通過したり、ゴール内部の背面を超えて留まった場合

○ペナルティの得点換算措置

- ・ペナルティの数を得点に置き換えて得点に変えて判定する
- ・競技スタート信号より前に離陸した場合はその時点で相手チームに1得点付与される
- ・1ペナルティあたり、0.8ポイントとして換算し、合計ポイントの小数点以下を切り捨てて算出して、相手チームの得点に加算する

○競技中のストライカーシール・タグ脱落時の対応、及び色の使用（LED含む）

- ・競技中にストライカーシール・タグが脱落し、ストライカーの認識が難しい場合、脱落した瞬間からの得点は認めない
- ・チーム区分、ポジション区分に障害となる過度な色の使用（LED含む）を禁止する

○勝敗

- ・ 1 セットで得たポイント数の優勢チームがそのセットを獲得する
- ・ 両チームが同ポイントもしくは無得点の場合は引き分けとする
- ・ 3 セットの内、多くセットを持ったチームが勝者となる

○引き分け

- ・ 獲得セット数が同一の場合、全セットの総得点で勝敗判定を行う

○反則・不法行為

- ・ 反則と不法行為には警告、セット敗、競技敗、があり同じ競技で3回の累積警告で競技敗となる
- ・ 同じ理由で警告を2回受けた場合、セット敗となる
- ・ 警告について
 - 1) 競技選手・コーチ以外が操縦スペースに留まっているとき
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して軽微な非紳士的な行為をしたとき
 - 3) 競技中のドローンボールに意図的に身体が接触した場合
 - 4) 事前了承無し、整備不良などで意図的に競技を遅延させた場合
 - 5) 競技開始の信号前にドローンボールを動かした場合
- ・ セット敗について
 - 1) 競技中の選手以外が操作した場合
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して重大な非紳士的な行為をしたとき
 - 3) 競技中のドローンボールに意図的に手、足、器具などで触れた場合
- ・ 競技敗について
 - 1) 故意にドローンを利用して他人に脅威を与えるなど安全上の落ち度がある場合
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して深刻な非紳士的な行為をしたとき

上記規定する

ドローンサッカー®競技規則(2019年10月15日制定) (2021年3月2日改訂)
(2023年4月1日改訂)
(2024年4月1日改訂)

III 【認定】 ドローンサッカー®トーナメント class40 Challenge 3×3

《競技ルール》

- スカイフェンス (競技場)
 - ・フィールド規定IVに定める通り
- ゴール
 - ・フィールド規定IVに定める通り
- ドローンボール規定
 - ・使用するドローンボールはオートボックスセブンが販売する公式機体を使用すること
 - ・丸い外骨格で覆う形状で直径 40 cm ± 2 cm
 - ・装備重量 1,100g 以下
(搭載 BT で測定・ストライカーシール除外・選手仕訳などの表示除外)
 - ・外骨格の解放面の単一面積が 150 cm²以下
 - ・所属チームと相手チームのドローンボールは全ての方向で確認可能な色の変更が可能な LED 装置を付けること。(赤・青必須)
 - ・ストライカーのドローンボールも他のドローンボールと区別できなければならない
- 選手とチーム
 - ・競技に参加するチームは最大5名とし、選手3名以下、コーチ2名以下で構成される
 - ・「操縦スペース」には試合中の選手・コーチのみが立ち入れる
 - ・選手は3名、ドローンボールは3台とする
 - ・選手構成は「ストライカー1名」「フィールドプレイヤー2名」とする
※フィールドプレイヤー：ゴールのディフェンスやストライカーのアシストをするプレイヤーの総称
 - ・選手は1台のドローンボールをコントロールするものとし、従って選手数とドローンボール数は同じとする
 - ・人数が足りない場合や、ドローンボールに問題が生じた場合は、最低2名以上の選手(ドローンボール)で試合を行うことができる
 - ・事前に試合開始時刻を告知したにも関わらず、試合開始前にストライカーを含む2名以上の選手が操縦スペースにいない場合、そのチームは試合を放棄したものとみなされる
 - ・試合の第2セット、又は、第3セットにおいて、セット開始前に2名以上の選手が操縦スペースにいない場合、そのセットはそのセットはセット敗とされ、次のセットに向けたインターバルタイム開始が宣言される

○選手交代

- ・選手交代はセット開始前に行うこと。セットのプレー中に選手交代はできない
- ・選手リストに登録されている選手であれば交代は可能で、交代回数に制限はない
- ・選手リストに登録されているコーチが選手として出場することも可能

○交代手順

- ・選手交代する場合は、交代する選手を審判に通知しなければならない
- ・通知するタイミングは、ドローンボールがスカイフェンスに入る前に審判に申告しなければならない
- ・交代選手のドローンボールの重量とマーキングを検査しなければならない
- ・交代前の選手が使用していたドローンボールをそのまま使用してもよい
その場合、機体検査は省略される

○選手の装備規定

- ・服装は自由であるが、明確にチームメンバーがわかることが必要
(帽子、制服、ベスト、A4サイズ以上の標識いずれか)
- ・目を守るメガネやサングラスの装着を推奨
- ・「ストライカー」とわかるよう機体にストライカーシール・タグを装着すること
(競技主催者より支給)
- ・1人称映像装置着用、携帯が可能
- ・予備の「ドローンボール」の準備可
- ・禁止事項
 - 1) 相手のプレーを阻害する「発光装置・電波発信機」を装着及び携帯すること
 - 2) 競技の進行を阻害する「音響関連装置」の装着及び携帯すること
 - 3) 競技開始前に、装備の相互確認が義務付けられる

○ジャッジメント

- ・競技会のジャッジメントは、日本ドローンサッカー連盟公式審判員にて行われる
- ・主審、副審の資格は別途規定に沿って認定される
- ・審判員は主審及び副審で構成し、主審が権限と裁量を持つ
- ・主審は競技中のすべての選手の観測が可能な場所に位置すること
- ・主審と副審のジャッジが不一致の場合は、主審を優先する
- ・主審は必要に応じて主催者がジャッジを目的に設置した映像装置での確認を行える
その際の判定は何度でも可能。(映像装置が設置されている場合)
- ・副審は2名設置し、両チームの操縦席と観客席の間に位置しゴールとスコアボードの両方を観察する
(得点とペナルティの正確な判定のため、副審の数を4名に増員することもできる)
- ・副審は主審がジャッジできない状況になった場合、主審に変わることができる

○競技時間

- ・1セット3分ずつ行い 3セット対戦
- ・セットの進行中は、作戦タイム等を行えない
- ・セット間のインターバルは、すべての選手のドローンボールが回収された後に5分間が宣言され、「整備」と「作戦タイム」を行うことが出来る

(時間は主審か決定しあらかじめ告知する)

- ・インターバルの中で「整備」が間に合わない場合でも時間延長は行わない
- ・次のセットに入るとき1チームで選手が2名以上いない場合、該当チームはセット敗となりその際は主審により次のセットまでのインターバルを宣言し、更に3分間を追加して付与できる
- ・競技開始10秒前の宣言より、セット終了までは競技を中断できない
(安全上の問題や公平な競技が継続できない場合は主審ジャッジで中断できる)
- ・中断後に上記が改善した場合、残時間にて競技を再開することができる

○競技の進行方法

- ・競技前
 - 1) コイントスで左右の操縦スペースの選択を行う。 ※3セット変更不可
※主催者側があらかじめ試合毎の操縦スペースを定めることも出来る
 - 2) 両チームのキャプテンは、ゴールの状態を確認することが出来る
- ・スタートと終了
 - 1) スタートと終了は音響もしくはアナウンスにて予告される
 - 2) 競技のスタート・終了はあらかじめ10秒前の予備信号もしくはアナウンスにより告知される
 - 3) 上記は最低各1回以上告知され、回数は増やすことが出来る
 - 4) ドローンボールがスターティングポイント、選手が操縦スペースに揃った時点で主審により予備信号もしくはアナウンスが告知される。
 - 5) スタートと終了は予備信号の後、ジャストタイムで手信号もしくは音響で告知される。

○ポイント

- ・ポイントの獲得
 - 1) 相手チームのゴールにストライカーのドローンボールが完全に通過すること
 - 2) ゴール裏側からのゴールは認められない
- ・連続ポイント制限 (オフサイド)
 - 1) 連続ポイントを抑制するためポイントを獲得したチームのすべてのドローンボールはハーフラインを完全に超えて自陣内に戻らなければならない
 - 2) 相手の陣で制御できない状態になった場合は、副審へ申告して操縦スペースから退去 (リタイヤ) すること

- 3) 相手のドローンボールが自陣へ帰ることを意図的に阻み、相手の追加ポイント時間を延ばす行為は可
- 4) 上記規定を遵守できない場合はポイント無効及びペナルティを与えられる
 - 1) オフサイド状態の得点は無効且つ、ペナルティを与えられる
 - 2) ストライカー以外はドローンボールで自陣ゴールを背面から前方に通過したり、ゴール内部の背面を超えて留まってはならない

・ペナルティの適用

- 1) 競技スタート信号より前に離陸した場合
(この場合は即座に相手チームに1得点が付与される)
- 2) オフサイド規定を無視して連続得点を行った場合
- 3) ストライカー以外がドローンボールで自陣ゴールを背面から前方に通過したり、ゴール内部の背面を超えて留まった場合

○ペナルティキック

- ・1セットで両チームのペナルティ数を相殺して、1チームにのみペナルティキックが与えられる
- ・タイミング：毎セット終了後、ペナルティキックに出場するストライカーとキーパーはバッテリー交換後、ペナルティキックの準備を行う
- ・方法：ストライカーとキーパーの1対1
ストライカーはハーフライン、キーパーはスターティングポイントに位置する
- ・時間：ペナルティ1回あたり5秒 時間内であれば連続ポイント可
(上記連続ポイント規定適応)
- ・ペナルティキックの終了後、両チームの選手のドローンボールが回収された後に5分間のインターバルタイムが付与される

○ペナルティの得点換算措置

- ・ペナルティキックを行わず、ペナルティの数を得点に置き換えて得点に変えることが出来る
- ・競技スタート信号より前に離陸した場合はその時点で相手チームに1得点付与される
- ・1ペナルティあたり、0.8ポイントとして換算し、合計ポイントの小数点以下を切り捨てて算出して、相手チームの得点に加算する
- ・上記は大会規定で事前に告知される

○勝敗

- ・1セットで得たポイント数の優勢チームがそのセットを獲得する
- ・両チームが同ポイントもしくは無得点の場合は引き分けとする
- ・3セットの内、多くセットを持ったチームが勝者となる

○引き分け

- ・獲得セット数が同一の場合、1回3分の延長戦もしくは、PK戦をおこなう
但し、大会規定において全セットの総得点で勝敗判定を行う場合もある
- ・大会規定で引き分けが認められる場合、延長戦とPK戦は行わない

○PK戦

- ・ペナルティキックと同様の規定で行う
- ・両チームそれぞれ3名が交代で5秒間ずつ実施し、総得点で勝敗を決定する

○反則・不法行為

- ・反則と不法行為には警告、セット敗、競技敗、があり同じ競技で3回の累積警告で競技敗となる
- ・同じ理由で警告を2回受けた場合、セット敗となる
- ・警告について
 - 1) 競技選手・コーチ以外が操縦スペースに留まっているとき
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して軽微な非紳士的な行為をしたとき
 - 3) 競技中のドローンボールに意図的に身体が接触した場合
 - 4) 事前了承無し、整備不良などで意図的に競技を遅延させた場合
 - 5) 競技開始の信号前にドローンボールを動かした場合
- ・セット敗について
 - 1) 競技中の選手以外が操作した場合
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して重大な非紳士的な行為をしたとき
 - 3) 競技中のドローンボールに意図的に手、足、器具などで触れた場合
- ・競技敗について
 - 1) 故意にドローンボールを利用して他人に脅威を与えるなど安全上の落ち度がある場合
 - 2) 競技中に審判、相手、観客に対して深刻な非紳士的な行為をしたとき

上記規定する

9) 付則

①公式用語について

ドローンサッカー®競技において使用される用語を普及における共通用語として以下に規定するものとする。なお、公式用語は本編編集時の呼称とし時間経過とともに新たに追加される呼称については本編改定時に変更又は追加するものとする。

以下公式用語（順不同）

○競技を表す用語

・【ドローンサッカー®】

球状のプラスチックフレームに覆われた専用ドローンボールを使用し5対5で戦う最新戦略型チームスポーツのことを示しドローンサッカー®の名称は競技や製品名称、又は、その類似する形態を表すもの

ドローンサッカー®の名称はAOSテクノロジーズ株式会社が保有する商標であり、株式会社オートバックスセブンに契約の元、使用許諾が与えられている

（登録番号 第5983929号）

JDSF及びJDSF支部、賛助会員、一般会員は別途定める規約の元使用出来る

・【ゲーム】

3分間を1セットとし3セット以上でゲームが構成される

・【セット】

上記ゲームの構成で1セットは3分間で行われる

・【インターバル】

セット間に設ける修理、作戦打ち合わせを行うために設定され5分間で構成される

○競技場を表す用語

・【アリーナ】

ドローンサッカー®の競技で使用する場所を示す

・【スカイフェンス】

四辺及び天井部をネットなどで囲んだ形状のものでサイズ及び床面に表記する線は規定されている

・【ゴール】

表記の通り表現する

・【ハーフライン】

ケージ内床面の中央に位置する線を表す

・【スターティングポイント】

試合スタート時にドローンボールを着地させる場所 床面の「線」や「点」を表す

- ・【**操縦スペース**】

スカイフェンスの両短辺に配置する場所 プレイヤーはこの範囲で操縦する

- プレイヤーや運営者を表す用語

- ・【**ストライカー**】

競技を行うドローンボールの内、得点を取る役割を持ったドローンボールの呼称
ストライカーと判定できるストライカーシール・タグ等で区別される

- ・【**フィールドプレイヤー**】

競技を行うプレイヤーの内、ストライカー以外の者の呼称
(class40 Extreme においてはストライカー以外のプレイヤーについて
呼称設定があります。後述にて確認ください)

- ・【**コーチ**】

チーム構成員で選手に指示、助言を行う者の呼称

- 用具を表す用語

- ・【**ドローンボール**】

ドローンサッカー®の競技で使用するドローンの呼称

- ・【**ストライカーシール**】【**タグ**】

ストライカーの役目を持つドローンボールに装着する目印の呼称
試合では、赤と青のチーム分けを行いそれぞれ装着することで区別する
または、class40 Extreme は、ストライカーはグリーン、ガイドはピンクで区別する
(両チーム同一)

- ・【**ペンタガード**】

Class40 のドローンボールの外周部の球状のガードの呼称

- ・【**TOP ガード**】

Class20 のドローンボールの外周部の球状上部のガードの呼称









- ・【**ボトムガード**】

Class40、class20 の地上接地部の呼称









②主審・副審の信号（手信号・旗・笛・等）

ドローンサッカー®競技進行時に発せられる合図は以下の通り

※手信号及び音響信号は他の手法に置き換えることができる

区 分	10秒前	セット開始	ストライカー 交代完了	セット終了
手信号				
音響信号	長く1回 	強く1回 	短く2回 	強く1回 長く1回 

上記は主審が行う

区 分	①得点認定	②得点不認定	③復帰指示	④復帰完了
旗				
GOAL LED色	 赤色 変更	 白色 維持	 赤色 維持	 白色 変更

- ①：ドローンボールが正規にゴールを通過した状態
この状態でポイントが加算される。但しこの時点からオフサイドに状態になる
- ②：不正状態のゴール
背面からのゴールや、オフサイド状態でのゴールなどを示す
- ③：オフサイドの状態でもフサイドからの復帰を指示している状態
- ④：オフサイドが解除された状態
この時点で次のゴールを狙える状態となる

③JDSF 組織

一般社団法人日本ドローンサッカー連盟 (=JDSF) の組織は JDSF の公式ホームページで公開される JDSF 公式 HP : <https://japan-dronesoccer.com/>

10) 国際規則(FIDA DRONE SOCCER RULE BOOK_JP VOL.2) の要点

2025 年開催のワールドカップを見据えた国際共通規則への習熟を目的としてグローバル競技会では FIDA の定める競技規則を遵守しなければならない
要点は以下の通り

1) プレイヤーポジションの設定

各プレイヤーのポジション名称及び識別カラーを設定する

先頭より ストライカー/ガイド/リベロ/スーパー/キーパー とし、それぞれのポジションが識別出来る LED ランプを装着する

2) ストライカーとガイドの役割交代規則

Class40 では、競技中にストライカーを交代することが可能となる

- ① ストライカーが試合中にリタイヤした場合、ストライカーの役割をガイドと交代することができる
- ② ストライカーを交代する場合は放棄したストライカーのドローンボールをガイドのドローンボールがタッチしなければならない
- ③ ガイドがストライカーをタッチする時は、ストライカーの操縦者が放棄宣言をした後、コントローラーを床に下ろした時点から可能で、タッチの成功可否は主審が判断する
- ④ 主審はストライカーの交代が正当に行われた場合、音響及び信号を利用して成功の可否を選手に知らせなければならない

3) 競技中のストライカーシール・タグ脱落時の対応

競技中にストライカーシール・タグが脱落し、ストライカーやガイドの認識が難しい場合、脱落した瞬間からの得点は認めない

4) チーム区分、ポジション区分に障害となる過度な色の使用 (LED 含む) を禁止する。 ※試合前に相手チームの了承を得たものは可

5) ドローンボールの方向識別などのために追加の LED を装着することは許容されるが色はポジションに合った色でなければならない

6) 交代手順について

- ① 交代した選手はドローンボールの機体検査を受けなければならない
- ② 選手交代時、前の選手が使用していたドローンボールをそのまま使用することができる

【プレイヤーのポジション名称及び識別カラー】

区 分		色	使用者	表示方法
チーム		赤色	チーム全員	LED
		青色	チーム全員	LED
ポジション		緑色	1番. ストライカー	LED
		ピンク色	2番. ガイド	LED
		水色	3番. リベロ	LED
		黄色	4番. スーパー	LED
		白色	5番. キーパー	LED
ストライカー	メイン	タグ・緑	ストライカー	タグ
	サブ	タグ・ピンク	ガイド	タグ

以上

JDSF Referee Rule Book は予告なしに改訂することがあります。

その際は HP や大会案内などに公開通知いたします。

HP リンク先：<https://japan-dronesoccer.com/rule/>

参考：FIDA RULE BOOK 用語集

1. 組織・アリーナ（競技場関連）

用語	説明
FIDA フィダ 国際ドローンサッカー協会	<ul style="list-style-type: none"> Federation of International Drone Soccer Association 世界選手権大会やワールドカップなどを統括する団体名称
Association	<ul style="list-style-type: none"> FIDAに加盟している世界各国の団体、対応機関 ※日本では（一社）日本ドローンサッカー連盟（JDSF）が該当
Drone soccer	<ul style="list-style-type: none"> 両チームそれぞれ5名の選手がサッカーボールの形をしたドローンを操縦し、相手チームの円形ゴールに得点する試合
Rule Book	<ul style="list-style-type: none"> Drone soccer Rule Book ※JDSF Referee Rule Bookがあり日本国内規則としてJDSFのHPで公開している
Sky fence ケージ	<ul style="list-style-type: none"> ドローンボールが外に出ないように側面と天井が金網やネットなどで覆われたケージ 操縦エリア、修理エリア中継ブース、観衆席その他の施設を含めて、ドローンサッカーアリーナと呼称する
Long side	<ul style="list-style-type: none"> スカイフェンスの長辺
Short side	<ul style="list-style-type: none"> スカイフェンスの短辺
Pilot area 操縦スペース	<ul style="list-style-type: none"> 選手がドローンボールを操縦する場所（選手とコーチが立ち入れるスペース）
Broadcasting booth 中継ブース	<ul style="list-style-type: none"> スカイフェンスの片側に位置し、競技の解説と中継を担当する場所
Half line ハーフライン	<ul style="list-style-type: none"> スカイフェンス床面の中央を2つに分けた線で両チームの陣営を区分するライン

Repair area 修理スペース	<ul style="list-style-type: none"> • 操縦スペースの後ろの空間、または別に設けられた空間で選手達のドローンボールの整備や作戦を議論する場所
Takeoff point スターティングポイント	<ul style="list-style-type: none"> • 試合開始前にドローンボールが離陸するのを待つ場所 「点」または「線」で表され、ゴールの下に位置する
Drone ball	<ul style="list-style-type: none"> • ドローンサッカー競技に使用される直径20cm・40cm球体型のドローン
Goal	<ul style="list-style-type: none"> • ドーナツ形で空中に設置 正面から通過することで得点が認められる

2. 選手と審判

Term	説明
Player 選手	<ul style="list-style-type: none"> • ドローンサッカーの試合でドローンボールを操縦する選手
Striker ストライカー	<ul style="list-style-type: none"> • 2名の攻撃手の内の1名で得点を獲得できる選手
Guide ガイド	<ul style="list-style-type: none"> • 2名の攻撃手の内の1名でストライカーの得点を支援するために相手の守備手を打ち出す役割を行う選手
Libero リベロ	<ul style="list-style-type: none"> • 守備手の内の1名でゴール前に配置し、相手のストライカーとガイドを打ち出す役割を行う選手
Sweeper スイーパー	<ul style="list-style-type: none"> • 守備手の内の1名で相手攻撃手のゴール接近を防ぐ選手
Keeper キーパー ゴールキーパー	<ul style="list-style-type: none"> • 守備手の内の1名で相手チームのゴールを防ぐ選手
Referee 審判	<ul style="list-style-type: none"> • 公正な試合のためFIDAから任命された者で 主審1名、副審2名（4名）で構成される

Head Referee 主審	<ul style="list-style-type: none"> FIDAから任命された者で規定に沿って、すべての権限と責任を持ち、試合の進行を担当する者
Assistant Referee 副審	<ul style="list-style-type: none"> 主審のサポート、試合の進行を担当する者
Reverse Pass リバースパス	<ul style="list-style-type: none"> 逆方向通過：ドローンボールがゴール裏から通過したり、正面から通過しきれずにゴール前に出てくる状態 ペナルティにカウントされる

JDSF Referee Rule Bookは無断転載禁止

ドローンサッカー関連規定・規則は、予告なく変更することがあります

発行日 : 2024. 4.1

発行人 : 一般社団法人日本ドローンサッカー連盟 (JDSF)

問合せ : <https://japan-dronesoccer.com/contact/>



Japan Drone Soccer
Federation
日本ドローンサッカー連盟

